

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2110108475		
法人名	医療法人社団 青友会		
事業所名	グループホーム ふるさと「1階」		
所在地	岐阜県岐阜市則武中3-15-17		
自己評価作成日	令和3年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2110108475-00&Ser.vicCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和3年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在コロナ禍で面会制限があり、以前のようにボランティアの方々の来訪や、地域交流がなかなか出来ない中、季節感を味わって頂ける様、食事に工夫したり、季節のイベントに参加してもらっています。高齢の為、入居者様に負担にならないよう、感染対策をした上で散歩、日光浴等でも季節を感じて頂いています。医療機関の併設事業所にて、主治医・眼科との連携が取りやすいので御家族様から安心できるとの声を頂いています。毎月、御家族様に生活記録をお送りし変化があれば、随時様子をお知らせし、連携を取っています。面会制限の為、お会いできない御家族様にはLINE登録をしていただき、ビデオ通話でお顔を見ながら会話をさせていただいています。インスタグラムも開設しており、事業所内のご様子をご覧いただけるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度もコロナ禍の状況が続いているが、その中でも利用者にとって、私たち職員が何が行えるのかを前向きに考え、ホーム全体でケア実践に取り組んでいる。具体的には、四季折々の昼食の提供やおやつ作り、野菜の収穫や園芸、散歩や日光浴、YouTubeテレビを活用した体操、AIロボット犬の導入等を通して認知症予防を図るとともに、生き生きとした生活が送れるよう支援している。また家族にホーム内の様子をSNS(インスタグラム)で発信したり、ビデオ通話を行う等して利用者の状況を伝え、家族の安心感へとつなげている。リビングは採光に優れて明るく、季節の飾りや利用者の作品が掲示されており、温かみを感じられる空間である。クリニックをはじめ、様々な福祉事業を展開する医療法人を母体とし、地域に開かれた法人として、地域の潜在的なニーズに応えている。クリニック受診や通所リハビリテーション等のサービスを経て、利用に至る人もあり、地域と馴染みの関係が築かれている。また、法人内の事業所間で協働して、行事や研修、消防訓練等を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生きる意欲につながる介護を目指し、安心・安全・安楽な生活が出来るよう支援しています。ゆったりと楽しく、ありのままに残された力を発揮し喜びと自信をもって生活して頂くよう支援しています。	理念に基づく実践として、利用者個々の心身状態や生活歴、日々のかかわりを通して得た情報をもとに、料理や洗濯、裁縫、野菜の収穫等をする機会を作り、利用者の潜在的な能力を引き出し、よりQOLを高めた生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員、藍水会、文化祭、則武小学校との交流がありましたが、コロナ禍にて開催が困難になっています。近隣の家に防災時の協力をお願いをしています。近隣に行ったり散歩に出かけた時、挨拶をしたり花を見せて頂いています。	コロナ禍の状況が続き、外出は制限的にならざるを得ないが、天気の良い日に近隣散歩に出かけ、地域住民と挨拶する等、顔なじみの関係となっている。またインスタグラムを行い、ホーム内での活動を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校の子供たちとの交流では認知症の事を理解してもらうよう努めていましたが、コロナ禍の為、開催が困難になっています。事業所のインスタグラム開設で、グループホームや認知症の方の理解や支援方法を投稿しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進委員会の開催が困難になっています。書面での対応となっていますが、参加予定者の方には意見書を書いていただき、意見を求めています。	各参加者に利用者や職員情報、行事等の運営状況を書面で報告し、そこから得られた意見を運営に役立てている。例えば、行政担当者から、感染症予防対策の状況内容についての記載の助言があり、サービス向上に取り入れたとの事である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや、岐阜市の介護保険課に分からない事は積極的に相談するように努めています。包括支援センターのケア会議への出席に努めています。	いつも、何かわからないことがあれば、市介護保険課や地域包括支援センターに相談できる体制ができている。現在はコロナワクチン接種や感染症対策について情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員の勉強会を実践。事故の不安があり、玄関などに施錠をしている時もありますが、現在は、開放するようにつとめています。1階にあるウッドデッキにも、自由に出入りしていただいています。	玄関先に行く利用者や外の景色を眺めている利用者についてはその様子を観察している。外に出たいという言動があれば、制止せず、一緒に散歩に行く等している。1階の外にあるウッドデッキでは、利用者が洗濯を干すことができ、日常的に出入りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会に参加、職員への意識付けを行っています。入居者様の声に耳を傾け、様子を観察する事に務めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の法人内研修に参加し、学ぶ機会を設けています。以前入居者様の中で、日常生活自立支援事業を利用して頂く事を支援しました。今後も必要時、行政と連携をとり、利用をすすめて行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に従い、ゆっくり文書と共に口頭で説明し、不明な点や確かめておきたい事は無いかと確認しています。法令の改正時には文書でお知らせし、不明点があればお聞きすると共に同意の印を頂く様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決相談の案内(ポスターの掲示)しています。御意見箱の設置しています。アンケートの実施しています。意見・意向等に対し話し合い実現に向けて検討しています。	電話や来訪時に、家族から伺った意見については、ホーム内で検討し、改善できるよう取り組んでいる。例えば、面会希望のあった意見に対し、LINEビデオ通話やインスタグラムを活用し、行事の様子を報告すること等の対応を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回理事を交えたミーティングを行ってサービスの質の向上をはかっています。朝の申し送り時懸案事項を話し合っています。月1回、ミーティングを開催し、提案、決定事項を皆に周知し実行しています。	毎月のミーティングでは、利用者のケア内容や業務内容の見直しを行っている。代表者が研修を行い、運営理念やサービス方針を伝え、意識統一を図っている。また、随時、代表者や管理者と面談を行い、意見を運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の進めと協力をしています。研修等に参加できるよう勤務表を作成しています。理事ミーティング時、改善の要望を伝え、改善出来る様に努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	岐阜県認知症介護実践者研修の参加し、法人内の研修(新人・現任)勉強会に参加、理事長よりマンネリ化しないよう、常に新しい知識を取り入れるよう、本を購入したりして学ぶよう指示あり、それをできるだけ実行できるように努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO岐阜県グループホーム協議会の会合に参加していましたが、コロナ禍の為困難になっています。SNSで情報を得たり、他の事業所の人と意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞いたり、御家族様、ケアマネ、利用施設のスタッフに情報を得て、安心・安全な生活が継続できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学に来て頂き、御家族様が話しやすい環境、安心感を持って頂けるように心がけ、ご家族様の事情、思い、不安を受け止めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と面談したり、担当ケアマネと連携し、必要としているサービスを提供するようにしています。 例えば、入居後も医療受診が必要な時には、その治療が継続できるよう手配するなどしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際に話しかけながら食事をしていただいています。食器洗いや洗濯物をたたんだりすると共に行事に参加し、歌ったり身体を動かしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの生活の様子、体調面の事などを随時お伝えし、御家族様と精神面でつながってられるように努めると共に御家族様に協力が必要と思われる時には、お願いするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出支援は出来ていないが、家族・友人・知人には気楽に電話などがかけていただけるように心がけています。LINEのビデオ通話ではお顔を見て話して頂けるよう声掛けしています。年賀状を送る支援をしています。	家族や友人から手紙や年賀状が届いた時や利用者から便りを書きたいと言われた時に一緒に書く支援を行っている。また、馴染みの人等への電話やビデオ通話について声かけをし、話してもらうよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握しトラブルが最小限になるように努力しています。 皆と過ごす時間を多くするよう、デイルームでのレク・体操、散歩等の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去の方が殆どで、契約終了後の関わりはあまり無いが、相談や季節の物を贈られてきます。本人が入院中は御家族様に近況をお聞きしたり、相談を受けたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、御家族様の要望、意向を聞いて得た情報を職員間で共有し、ご本人の思いに添えるよう努めています。	暮らしの中で、利用者が話す内容を傾聴し、意向を把握して記録し、申し送りを行い、情報共有している。意思疎通が困難な方は、表情や言動、しぐさを観察し、職員間で話し合い、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に日々の暮らしぶりをご本人・御家族様等から確認し使い慣れた鏡台、家具等を持ってきて頂き、環境を整えています。ペットのレンタルもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調管理、心身状態を朝の申し送り時に意見交換しNSとの連携を密にして現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当者が行い、ケア会議は計画作成者が中心となって介護計画を作成しています。	利用者の健康状態や生活状況等の記録を、毎月家族に送付し、聞き取った意見を踏まえて、介護計画を作成している。また、3か月ごとに担当者がモニタリングを行い、毎月のミーティング等を通して職員間で意見交換を行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、生活支援実施書はいつでも見れるようにしています。生活記録、看護・介護記録と共にデータ管理し、情報の共有、漏れがないようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設医院への受診支援。 隣接の小規模多機能との交流があります。 美容院の方に来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流、民生委員さんの訪問、運営推進委員会のメンバーから地域の情報を得て参加支援をしていましたが、コロナ禍の為、困難になっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の受診の協力、状態を報告するなど主治医との連携、定期健診支援、他科への受診が必要な時は、ご本人と御家族様の意向を確認し、スムーズに受診出来る様に支援しています。	入居時に多くの利用者が法人内医師を主治医に希望している。法人のクリニックとは定期的な訪問診療を通して密な連携関係にある。他科受診の際は家族同行をお願いしているが、受診情報は職員間で申し送りノートを使ったり、口頭で伝える等して共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主にGHの常勤看護師に報告・相談をし、適切な医療が受けられるにしています。常勤看護師不在には外来、小規模多機能の看護師に報告・相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時サマリーの交換、病院の相談員と馴染みの関係となっており、不明な点など相談員を通して情報を得ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明し同意書を受理しています。重度化した場合には主治医、御家族様と共に話し合い、方針を共有し支援しています。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」の書面を用い、説明して利用者・家族の意向を確認している。重度化した場合、家族と相談し、医療機関や他施設への入院の提案をしたり、看取りケアを実施する等している。看取りを行う段階において、再度詳しい説明を行い、同意を得た上で看取りの支援を行っている。	デスカンファレンスを行い 職員同士で看取りケアのあり方について振り返る機会があることが望ましいと思われる。今後ともデスカンファレンス等を通してより一層、質の高い看取りケアの提供に向けた取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書を文書で残し、事故防止について話し合っています。研修にてAED使用方法・緊急時の対応時の実習 救急・急変時のマニュアルがあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(夏・冬)を実践しています。小規模多機能ふるさととの合同訓練、運営推進会議において協力を依頼、同一法人からの支援、近隣に協力依頼、地域の避難訓練に参加、年に1回は夜間想定での避難訓練をしています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。9月の実施時にはマニュアルを見直し、避難誘導経路、火器設置場所や役割分担、緊急時の対応等を再確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、ご本人の尊厳を損ねないように対応に努めています。 法人内の研修を毎年受けています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人の状況に合わせた声かけに努めている。職員は利用者の表情や態度から失礼のないようにトイレへ誘導している。ウェブセミナー研修を受講し、尊厳について勉強している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化し自分の思いや希望を表現できない方がいたら、業務・職員本位とならないように答えやすい質問をしたり、表情から読み取るなどご本人の思いを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示が困難な方が多く、大まかな日課に沿い、体調・表情を読み取りながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理髪、髭剃りの見守り、風呂上りの化粧水、可能な方は自分で行って頂く様に援助しています。着ている服に対して褒め言葉をかけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化し出来ない方がいるが、味見をして頂いたり、対面での調理を行い、音、匂い等で調理の気分を味わって頂いています。楽しく食べて頂くよう会話も大切にしています。	月数回は、皆で調理する献立の日を設けている。最近では、「焼きそば」や「うどん」を皆で作し、美味しくいただいたとの事である。行事食・おやつ作りは利用者の楽しみとなっており、生き生きとした利用者の姿が見て取れた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録で食事の摂取量や必要時に水分量を記録、栄養をバランスよく摂取できるようにしています。状態に合わせて、刻み・粥・とろみ食の提供、摂取量が少ない時は補食を提供、水分補給をこまめに行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る力を見極めながら、朝食前・昼食後・夕食後、入居者様の口腔ケアの援助を行っています。義歯の洗浄は職員管理で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力や訴えに応じて全介助、一部介助や声掛けを行なっています。一部、尿・便意がなく、定期的にトイレ介助、自立に向けた支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけをしている。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っており、飲水量・服薬状況などを記録し、職員間で情報共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れるようにしています。適度な運動や水分摂取の支援をしています。排泄チェック表で確認をしています。医師の指示の元、下剤を使用しています。看護師による浣腸の施行、排便管理をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の好みの湯加減にする等し、ゆっくり、くつろいで入浴して頂けるように心掛けています。安心して入浴して頂けるようリフトバス、シャワーチェアの使用、職員2人介助が必要な方が殆どあります。H26.3月に浴室の修理を実施。	週2回の入浴を基本としている。身体の機能低下がある利用者にはリフト機械浴で支援している。体調や意向を確認し、安心して入浴ができるよう支援している。また、入浴剤を使用する等、入浴が楽しみなものになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった就寝時間や寝具で落ち着いて眠って頂けるよう援助しています。車椅子の方は身体的負担を考え午睡を取って頂く様になっています。(本人の意志にしたがっています)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に看護師が薬を管理しているが、介護職員も薬の処方内容を確認したり、新しく薬が処方された時は副作用について説明を受け、意識を高めるようにしています。服薬確認チェック表や職員同士で名前の確認、夜間は記録により誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設のデイケアや小規模多機能とのイベントやレクの交流、ボランティアの歌や踊りを楽しまれていましたが、コロナ禍の為、困難になっています。女性利用者が多く、食事作り・食器洗いなど家事を行っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻回とはいかないが散歩に出たり、本人希望にて日向ぼっこして頂いています。現在の職員数では外出援助を行うのは難しく、利用者の心身機能も低下してきており、車椅子使用でしか外出できていないです。	今年度も引き続き、コロナ感染予防のため、外出は控えざるを得ない状況にある。例年は日常的に散歩に出かけ、近くの薔薇の庭園を見に行く等していた。現在は、外出の代替としてテレビにチューブを繋ぎ、歌や景色等を楽しんだり、日当たりがよい中庭で寛いだり、近隣の散策を行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化し、金銭管理に対する要求がなく、可能な限り買い物代行の援助をしているが殆ど御家族様にお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化し自ら手紙を書くという要求がないが気持ちを代弁し、職員が年賀状を代筆して、投函しています。電話は希望があれば掛けられるようにしているが、御家族様の「困る」という思いにも配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事にあわせた飾りつけや、プランターに野菜や花を育てています。ソファやコタツを設けゆったりと過ごして頂けるように配慮しています。	中庭からの採光に優れ、明るく広々としている。密にならないよう配置を工夫して、居心地良く、開放的なリビングである。季節の飾りや利用者の作品が掲示され、冬はテーブルがコタツになる等、快適に過ごせるよう配慮している。またAIロボット犬を導入し、人気者になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、居室には本人の作品や、記念の写真を飾り、安心できる環境づくりに配慮しています。食堂からリビングまで好みに応じ自由に利用できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、生活用品の持ち込み、居室内配置や壁の掲示は自由にして頂いています。トイレ付きの居室、冷蔵庫、洗面所の設置があります。	各居室に冷蔵庫、洗面台が設置されている。トイレがある部屋もある。居室への持ち込みは自由であり、馴染みの家具や小物が置いてある。利用者それぞれの生活スタイルを尊重し、自分らしく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂に手すりの設置、ベランダ、廊下の窓には転落防止のバーの取り付けを行っています。便座の高さや洗面所の高さの調整、必要時には足台の設置、居室にPTイレ利用できるように置く方もみえます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2110108475		
法人名	医療法人社団 青友会		
事業所名	グループホーム ふるさと「2階」		
所在地	岐阜県岐阜市則武中3-15-17		
自己評価作成日	令和3年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2110108475-00&SerViCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和3年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在コロナ禍で面会制限があり、以前のようにボランティアの方々の来訪や、地域交流がなかなか出来ない中、季節感を味わって頂ける様、食事に工夫したり、季節のイベントに参加してもらっています。高齢の為、利用者様に負担にならないよう、感染対策をした上で散歩、日光浴等でも季節を感じて頂いています。医療機関の併設事業所にて、主治医・眼科との連携が取りやすいので御家族様から安心できるとの声を頂いています。毎月、御家族様に生活記録をお送りし変化があれば、随時様子をお知らせし、連携を取っています。また、面会制限の為、お会いできない御家族様にはLINE登録をしていただき、ビデオ通話でお顔を見ながら会話をさせていただいています。インスタグラムも開設しており、事業所内での様子をご覧いただけるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生きる意欲につながる介護を目指し、安心・安全・安楽な生活が出来るよう支援しています。ゆったりと楽しく、ありのままに残された力を発揮し喜びと自信をもって生活して頂くよう支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員、藍水会、文化祭、則武小学校との交流がありましたが、コロナ禍にて開催が困難になっています。近隣の家に防災時の協力をお願いをしています。近隣に行ったり散歩に出かけた時、挨拶をしたり花を見せて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校の子供たちとの交流では認知症の事を理解してもらうよう努めていましたが、コロナ禍の為、開催が困難になっています。事業所のインスタグラム開設で、グループホームや認知症の方の理解や支援方法を投稿しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進委員会の開催が困難になっています。書面での対応となっていますが、参加予定者の方には意見書を書いていただき、意見を求めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや、岐阜市の介護保険課に分からない事は積極的に相談するように努めています。包括支援センターのケア会議への出席に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員の勉強会を実践。事故の不安があり、玄関などに施錠をしている時もありますが、現在は、開放するようにつとめています。1階にあるウッドデッキにも、自由に出入りしていただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会に参加、職員への意識付けを行っています。入居者様の声に耳を傾け、様子を観察する事に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の法人内研修に参加し、学ぶ機会を設けています。以前入居者様の中で、日常生活自立支援事業を利用して頂く事を支援しました。今後も必要時、行政と連携をとり、利用をすすめて行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に従い、ゆっくり文書と共に口頭で説明し、不明な点や確かめておきたい事は無いかと確認しています。法令の改正時には文書でお知らせし、不明点があればお聞きすると共に同意の印を頂く様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決相談の案内(ポスターの掲示)しています。御意見箱の設置しています。アンケートの実施しています。意見・意向等に対し話し合い実現に向けて検討しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回理事を交えたミーティングを行ってサービスの質の向上をはかっています。朝の申し送り時懸案事項を話し合っています。月1回ミーティングを開催し、提案、決定事項を皆に周知し実行しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の進めと協力をしています。研修等に参加できるよう勤務表を作成しています。理事ミーティング時、改善の要望を伝え、改善出来る様に努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	岐阜県認知症介護実践者研修の参加し、法人内の研修(新人・現任)勉強会に参加、理事長よりマンネリ化しないよう、常に新しい知識を取り入れるよう、本を購入したりして学ぶよう指示あり、それをできるだけ実行できるように努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO岐阜県グループホーム協議会の会合に参加していましたが、コロナ禍の為困難になっています。SNSで情報を得たり、他の事業所の人と意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞いたり、御家族様、ケアマネ、利用施設のスタッフに情報を得て、安心・安全な生活が継続できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学に来て頂き、御家族様が話しやすい環境、安心感を持って頂けるように心がけ、ご家族様の事情、思い、不安を受け止めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と面談したり、担当ケアマネと連携し、必要としているサービスを提供するようにしています。 例えば、入居後も医療受診が必要な時には、その治療が継続できるよう手配するなどしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際に話しかけながら食事をしていただいています。食器洗いや洗濯物をたたんだりすると共に行事に参加し、歌ったり身体を動かしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの生活の様子、体調面の事などを随時お伝えし、御家族様と精神面でつながっていられるように努めると共に御家族様に協力が必要と思われる時には、お願いするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出支援は出来ていないが、家族・友人・知人には気楽に電話などかけていただけるように心がけています。LINEのビデオ通話ではお顔を見て話して頂けるよう声掛けしています。年賀状を送る支援をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握しトラブルが最小限になるように努力しています。皆と過ごす時間を多くするよう、デイルームでのレク・体操、散歩等の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去の方が殆どで、契約終了後の関わりはあまり無いが、相談や季節の物を贈られてきます。本人が入院中、御家族様に近況をお聞きしたり、相談を受けたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、御家族様の要望、意向を聞いて得た情報を職員間で共有し、ご本人の思いに添えるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に日々の暮らしぶりをご本人・御家族様等から確認し使い慣れた鏡台、家具等を持ってきて頂き、環境を整えています。ペットのレンタルもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調管理、心身状態を朝の申し送り時に意見交換しNSとの連携を密にして現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当者が行い、ケア会議は計画作成者が中心となって介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、生活支援実施書はいつでも見れるようにしています。生活記録、看護・介護記録と共にデータ管理し、情報の共有、漏れがないようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院への受診支援。 隣接の小規模多機能との交流があります。 美容院の方に来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流、民生委員さんの訪問、運営推進委員会のメンバーから地域の情報を得て参加支援をしていましたが、コロナ禍の為、困難になっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の受診の協力、状態を報告するなど主治医との連携、定期健診支援、他科への受診が必要な時は、ご本人と御家族様の意向を確認し、スムーズに受診出来る様に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主にGHの常勤看護師に報告・相談をし、適切な医療が受けられるにしています。常勤看護師不在には外来、小規模多機能の看護師に報告・相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時サマリーの交換、病院の相談員と馴染みの関係となっており、不明な点など相談員を通して情報を得ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明し同意書を受理しています。重度化した場合には主治医、御家族様と共に話し合い、方針を共有し支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書を文書で残し、事故防止について話し合っています。研修にてAED使用方法・緊急時の対応時の実習。救急・急変時のマニュアルがあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(夏・冬)を実践しています。小規模多機能ふるさととの合同訓練、運営推進会議において協力を依頼、同一法人からの支援、近隣に協力依頼、地域の避難訓練に参加、年に1回は夜間想定避難訓練をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、ご本人の尊厳を損なわないように対応に努めています。 法人内の研修を毎年受けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化し自分の思いや希望を表現できない方がいたら、業務・職員本位とならないように答えやすい質問をしたり、表情から読み取るなどご本人の思いを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示が困難な方が多く、大まかな日課に沿い、体調・表情を読み取りながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理髪、髭剃りの見守り、風呂上りの化粧水、可能な方は自分で行って頂く様に援助しています。着ている服に対して褒め言葉をかけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化し出来ない方がいるが、味見をして頂いたり、対面での調理を行い、音、匂い等で調理の気分を味わって頂いています。楽しく食べて頂くよう会話も大切にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録で食事の摂取量や必要時に水分量を記録、栄養をバランスよく摂取できるようにしています。状態に合わせ、刻み・粥・とろみ食の提供、摂取量が少ない時は補食を提供、水分補給をこまめに行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る力を見極めながら、朝食前・昼食後・夕食後、入居者様の口腔ケアの援助を行っています。義歯の洗浄は職員管理で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力や訴えに応じて全介助、一部介助や声掛けを行なっています。一部、尿・便意がなく、定期的にトイレ介助、自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れるようにしています。適度な運動や水分摂取の支援をしています。排泄チェック表で確認をしています。医師の指示の元、下剤を使用しています。看護師による浣腸の施行、排便管理をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の好みの湯加減にする等し、ゆっくり、くつろいで入浴して頂けるように心掛けています。安心して入浴して頂けるようリフトバス、シャワーチェアの使用、職員2人介助が必要な方が殆どあります。H26.3月に浴室の修理を実施。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった就寝時間や寝具で落ち着いて眠って頂けるよう援助しています。車椅子の方は身体的負担を考え午睡を取って頂く様にしています。(本人の意志にしたがっています)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に看護師が薬を管理しているが、介護職員も薬の処方内容を確認したり、新しく薬が処方された時は副作用について説明を受け、意識を高めるようにしています。服薬確認チェック表や職員同士で名前の確認、夜間は記録により誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設のデイケアや小規模多機能とのイベントやレクの交流、ボランティアの歌や踊りを楽しまれていましたが、コロナ禍の為、困難になっています。女性利用者が多く、食事作り・食器洗いなど家事を行っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻回とはいかないが散歩に出たり、本人希望にて日向ぼっこして頂いています。現在の職員数では外出援助を行うのは難しく、利用者の心身機能も低下してきており、車椅子使用でしか外出できていないです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化し、金銭管理に対する要求がなく、可能な限り買い物代行の援助をしているが殆ど御家族様にお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化し自ら手紙を書くという要求がないが気持ちを代弁し、職員が年賀状を代筆して、投函しています。電話は希望があれば掛けられるようにしているが、御家族様の「困る」という思いにも配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事にあわせた飾りつけや、プランターに野菜や花を育てています。ソファやコタツを設けゆったりと過ごして頂けるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、居室には本人の作品や、記念の写真を飾り、安心できる環境づくりに配慮しています。食堂からリビングまで好みに応じ自由に利用できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、生活用品の持ち込み、居室内配置や壁の掲示は自由にして頂いています。トイレ付きの居室、冷蔵庫、洗面所の設置があります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂に手すりの設置、ベランダ、廊下の窓には転落防止のバーの取り付けを行っています。 便座の高さや洗面所の高さの調整、必要時には足台の設置、居室にPTイレ利用できるような置く方もみえます。		